

# がんセンターたより



## 総長就任のご挨拶

総長 古瀬 純司

令和4年4月1日付で、神奈川県立がんセンター総長に就任いたしました。神奈川県立がんセンターは、900万人を超える人口を抱える大きな神奈川県のがん医療の中核を担うがん専門病院であり、その責任者という職を務めますこと、大変光栄であり、また責任の重さを実感しているところです。

神奈川県立がんセンターは、これまで病院、臨床研究所、事務局が一体となって高度医療の提供、高度医療技術の研究・開発、がん医療に関する研修など、幅広い役割を果たしてきました。最近では、重粒子線治療とがんゲノム医療を新たな柱に加え、神奈川県立がんセンターでなければできないがん医療を推進しています。

がんの治療は日々進歩しています。切除手術で病巣を完全に切り除くことは治癒を目指す治療の基本であり、より小さい負担と確実な切除を行うためロボット手術も積極的に取り入れています。切除が難しい場合は放射線治療や薬物療法が使われます。重粒子線治療は、通常の放射線治療では制御が難しいがん腫にも有効性と安全性が期待される治療であり、最近では保険適用となるがん腫も増えています。がん薬物療法はゲノムに基づく個別化の時代になっています。当センターはがんゲノム医療拠点病院に指定され、多くの病院と連携し、最新のがんゲノム医療を進めています。私たちは診療科の垣根を超えた多業種の緊密な連携の下、ひとりひとりの患者さんに最適な医療を進めています。

わが国は高齢化が進み、また個々の患者さんの価値観も多様化しています。がん医療もそのような時代の変化に即して変わっていく必要があります。患者さんのさまざまな思いを尊重したきめ細かいがん診療が求められています。そのためには神奈川県立がんセンターだけでなく、地域の医療連携も欠かせません。県内・近隣のがん診療ネットワークをより緊密なものにするよう努めていきたいと考えています。がんに関することは何でも、私たち神奈川県立がんセンターをご利用いただければ幸いです。

## 就任のご挨拶



副看護局長  
鳴原 まゆみ

4月1日付で副看護局長として配属になりました鳴原と申します。循環器呼吸器病センターから異動してまいりました。がんセンターは、旧棟時代に基礎教育の臨地実習で学生と一緒に世話になった以来となります。

新型コロナウイルス感染症の第6波も漸く落ち着きつつありますが、依然として先が見えないなか、医療現場は厳しい状況に置かれ変化しています。そのような社会情勢や医療・看護の動向の変化に柔軟に対応することが求められていると日々感じております。

業務担当副看護局長として、看護局のミッションでもあります「がんと共に今を生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切に最良の看護を提供する」ことに向けて、がんの専門性を発揮し質の高い看護の提供と、スタッフ自身もやりがいを持ちながらいきいきと働ける職場環境を皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局長  
天野 一

神奈川県庁からの派遣で、4月1日から、事務局長として着任しました、天野です。

これまで、県の職員として県民福祉の向上に努めてきましたが、このコロナ禍においては、最前線で闘い続けている医療・福祉従事者の皆様に、県民の皆様からの感謝の気持ちをお伝えする事業を進めてきました。

県民の皆様から「かながわコロナ医療・福祉等応援基金」にいただいた御寄付は17億円近くになり、また、「過酷な状況のもと、誇りを持ってお仕事に取り組む皆様に心から尊敬し、感謝しています」などの感謝のメッセージも多く寄せられているところです。

あらためて、県民のひとりとして、医療・福祉従事者の皆様に感謝を申し上げます。

そして、これからは、私も、がんセンターの職員として、コロナ禍への対応とともに、当センターが「患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院」となるように、尽力してまいりたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

# 新任 の 紹介



## 幹部職員



総長  
古瀬 純司

## 幹部職員

## 医療局



副看護局長  
鳴原 まゆみ



事務局長  
天野 一



財務経営課長  
百合川 友昌



リハビリテーション科 医長  
佐久間 藤子

## 医療局



消化器内科 医長  
戸塚 雄一郎



消化器外科 医長  
長澤 伸介



泌尿器科 医長  
中井川 昇



呼吸器外科 医師  
菊西 哲雄

## 医療局



血液・腫瘍内科 医師  
泉 陽彦



血液・腫瘍内科 医師  
新井 翔太



消化器内科 医師  
古澤 享子



消化器内科 医師  
角田 翔太郎

## 医療局



消化器外科 医師  
高橋 大志



乳腺内分分泌外科 医師  
高橋 有佳里



泌尿器科 医師  
山本 章太郎



泌尿器科 医師  
竹部 慎一

医療局



骨軟部腫瘍外科 医師  
案納 忠識



放射線診断・IVR科 医師  
柿内 明



放射線診断・IVR科 医師(専攻医)  
青木 淳



放射線治療科 医師(専攻医)  
高下 啓明

医療局



病理診断科 医師  
長谷川 知愛

看護局



看護局(6E) 看護科長  
奥山 真弓

レジデント(36期生)



レジデント 医師  
繁田 奈央子



レジデント 歯科医師  
朝香 一誠

レジデント(36期生)



レジデント 医師  
磯田 まや



レジデント 医師  
小野 由香利



レジデント 医師  
大沼 静音



レジデント 医師  
上田 麗子

役職  
変更

医療局



がんゲノム診療科 部長  
廣島 幸彦



放射線治療科 医長  
土田 圭祐



呼吸器外科 医師  
三浦 隼

臨床研究所



がん免疫療法研究開発学部 医長  
氷室 秀知

医療技術部



医学物理工学科 科長  
草野 陽介

皆さん

どうぞよろしく願いいたします！

## 令和3年度患者満足度調査の結果をご報告いたします

当院では、令和3年10月から11月にかけて入院・外来の患者満足度調査を実施いたしました。ここに、調査結果の一部をご報告させていただきます。

実施期間	入院	令和3年10月25日（月）～11月5日（金）
	外来	令和3年10月26日（火）～10月28日（木）
回答数	入院	263件
	外来	903件

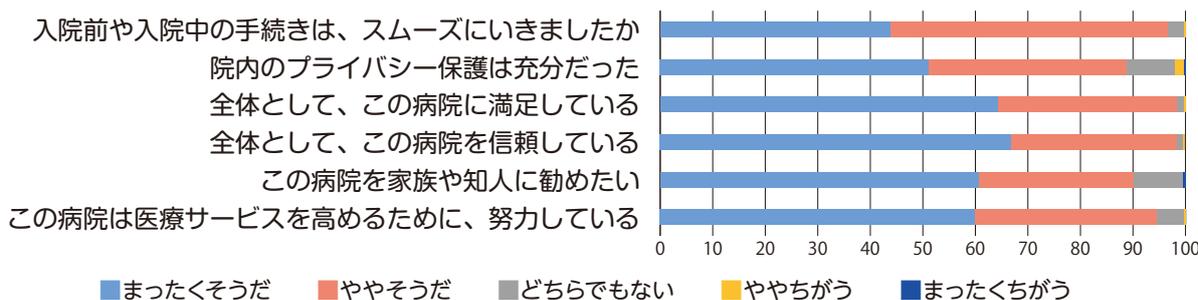
病院全体及び項目別満足度とも外来は昨年度より満足度が上がっていますが、入院については、下がっている項目が増えています。特に入院時説明や具体的な治療について十分に満足いただけていない結果となりました。

### 1. 病院全体の総合評価

#### 外来満足度総合評価



#### 入院満足度総合評価



### 2 病院全体の満足度 [最大値：10点] ※ ( )内の数値は前回調査との差異

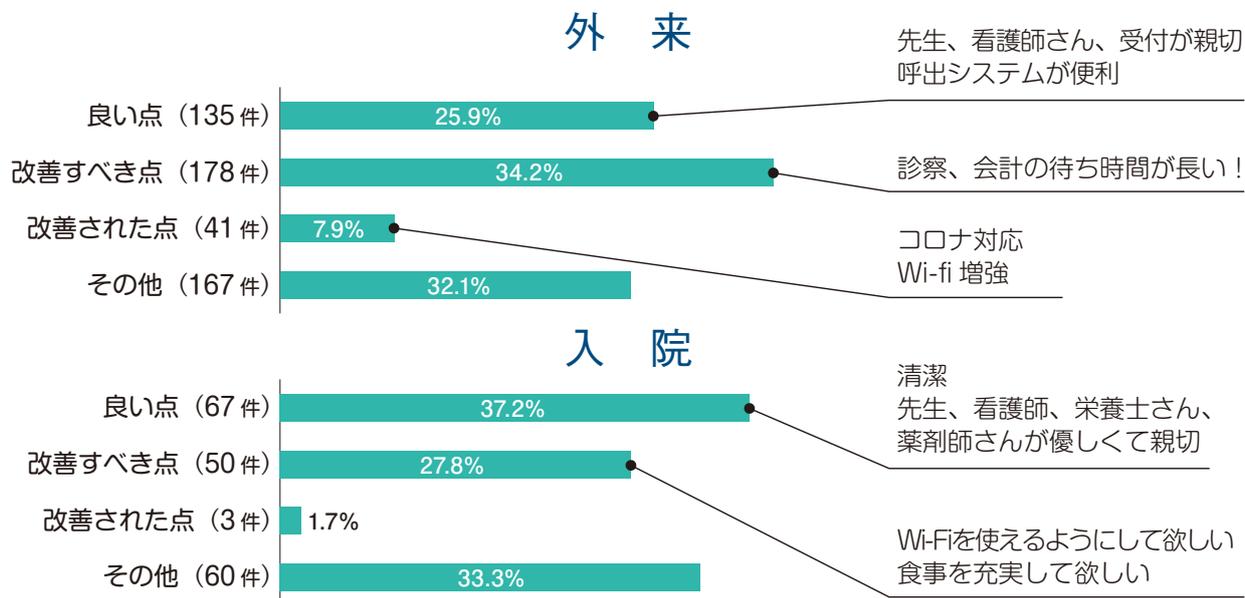
病院全体の評価	外来	入院
プライバシー保護は充分だった	6.4 (↑0.9)	6.9 (↓0.2)
病院に満足している	7.2 (↑1.1)	8.1 (↑0.1)
病院を信頼している	7.6 (↑1.0)	8.2 (↓0.1)
家族、知人に勧めたい	6.8 (↑0.5)	7.5 (↓0.2)
医療サービスを高めるために、努力し向上している	6.6 (↑1.1)	7.7 (↓0.1)

3. 項目別満足度 [最大値：10点] ※ ( )内の数値は前回調査との差異

項目	満足度
<b>外 来</b>	
診察前(紹介、待ち時間、待合室環境)	5.6 (↑0.5)
診察や医療スタッフ(医師の診察、看護師の説明・処置)	7.0 (↑1.2)
検査(尿検査、血液検査、CT、MRI、レントゲン、処置・説明)	7.8 (↑0.8)
施設・設備・情報提供(診察室、院内設備、がん相談、情報提供)	6.0 (↑0.8)
会計(順番が公平・長く待つ、請求書、職員対応、自動清算機)	4.8 (↑1.2)
総合評価(病院全体)	6.9 (↑0.9)
<b>入 院</b>	
入院時の説明等(医師説明、入院手続き、入院中生活説明)	6.5 (↓0.2)
入院中の診療や医療スタッフ(医師の説明・診療、看護師の説明・処置、介助等)	7.6 (↓0.1)
入院中の具体的な治療(検査、薬剤師・栄養士の説明・指導、手術、リハビリ)	7.4 (↓0.3)
施設・設備・情報提供(トイレ・浴室、病室内環境、エレベーター階段、食事、がん相談等)	6.3 ( 0.0)
退院(退院説明、会計)	7.2 (↑0.3)
総合評価(院内仕組み、病院全体)	7.7 ( 0.0)

※ 2,3の満足度の考え方  
各設問の回答項目「まったくそうだ」、「ややそうだ」、「どちらでもない」、「ややちがう」、「まったくちがう」の回答者数に対し、それぞれ10点、5点、0点、-5点、-10点を掛け、満足度を回答数で割った平均の数値。

4. 皆様の自由記載



\* Wi-Fi 環境については、全病棟使用できるようになりました！ \*

まとめ

今回の調査を通じて、皆様からいただきましたご意見をもとに、今後より良い病院運営に活かしてまいります。ご協力いただきました患者さん、ご家族の皆様にお礼申し上げます。

## 第33回県民のための公開講演会 「ここまで進んだがんゲノム医療」

臨床研究所・がん治療学部 菊地 慶司

さる4月22日(金)、二俣川の旭区民文化センター(サンハート)ホールにて、県民のための公開講演会「ここまで進んだがんゲノム医療」が臨床研究所の主催により開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一昨年・昨年と開催が見送られたため、3年ぶりの開催となりました。今回、感染予防のためホールの定員の半分での開催となりましたが、幸い入場制限をすることもなく70人を超える方々にご来聴いただくことができました。

「がんゲノム医療」は、患者さんのがんで変化(変異)してがんの原因となっている遺伝子を調べて適切な抗がん剤による治療に結びつける最先端の医療技術で、3年前からは保険診療で実施されるようになりました。当がんセンターは全国に34カ所ある「がんゲノム医療拠点病院」のひとつとなっており、これまでに800例を超えるがんゲノム診療の実績を積んできています。

講演会では宮城洋平 臨床研究所長より「がんとゲノムの基礎知識」、成松宏人 臨床研究所・がん予防情報学部部長 兼 遺伝診療科部長より「遺伝とがん その知られざる関係」、廣島幸彦 臨床研究所・がん治療学部部長 兼 がんゲノム診療科部長より「遺伝子パネル検査の現状と展望」、近藤拓也 泌尿器科医師より「前立腺がんでの遺伝子パネル検査」を紹介させていただきました。来場の皆様からのアンケートでは「遺伝子パネル検査を受けるメリットを知りました」「がん・ゲノム医療に希望の光が見えた様な気がします」など、おおむね好評の感想をいただくことができました。



ご来場下さった皆様、演者の先生方と古瀬総長をはじめご協力くださった関係者の方々に感謝いたします。また、今後もこのような講演会を通して県民の皆様にごがんの最新情報を的確にお伝えしていけるよう臨床研究所も努力して参ります。

## 駐車場拡張について

移転工事に伴いご不便をお掛けしておりました第2駐車場の工事が終了し、全面的にご利用が可能となりました。また、この移転に合わせ平日9時から13時まで、病院西側出入口（免許センター方面）をご利用いただけるようになりました。13時以降または休日ご利用の際はお手数ですが、休日夜間出入口（防災センター）をご利用ください。



## HP リニューアル について

かねてより準備を進めておりました当センターホームページのリニューアルが完了し、公開する運びと相成りました。

この度のリニューアルでは皆様に、より見やすく、また情報を分かりやすくお伝えできるホームページとなるように、デザインや構成を一新しました。

さらに職員や治療に関するコラムの掲載など、今までにないコンテンツを新設し、当センターのことをより深く知っていただけるような内容となっております。

これからも定期的に更新し、皆様にご満足いただけるサイト作りを目指してまいります。



## 編集後記

新年度を迎え今回の「がんセンターたより」は総長以下、新たな体制でリフレッシュしたメンバーからの思いを発信させていただきました。かくいう私も広報として本たよりを新たに担当することになりました。よろしくお願ひいたします。合わせてホームページもリニューアルしましたので是非ご覧ください。皆様方との連携ががん診療には欠かせないことが、これまで以上に求められていると日々感じます。少子高齢化、働き方改革、コロナ禍、医療の高度化、高額化、いずれのキーワードも良質な医療を持続可能とするための課題であり、そのためには地域連携が欠かせません。皆様と当院の架け橋になれるような情報発信を目指します。皆様からの忌憚ないご意見も是非お寄せください。

副院長 岸田 健